

## 備忘メモ 塩尻地区／上塩尻・過去の調査研究

### (1) 小林昌人氏による調査研究 1989

塩尻地区、とりわけ上塩尻の歴史的・文化財的価値が評価される契機となったのは小林昌人氏による調査が最初ではないかと思われる。

小林昌人氏（1931～2001、長野県松本市生まれ）は、富士通信製造（後に富士通）に入社し、電気通信技術者として働いた。その傍ら、昭和30年代から全国の民家、集落などを訪ねる旅を重ねてきた。1988年に退職した後は日本民俗建築学会理事長を務めている。『民家巡礼』（1979年）、写真集『民家の風貌』（1994年）などの著書がある。

小林昌人氏は、1989年7月、山崎弘氏（工学院大学建築学科教授、日本民俗建築学会理事）、津山正幹氏（日本民俗建築学会理事）、山崎弘研究室の学生らと上塩尻の調査をした。「蚕業の先駆者を輩出した上田市上塩尻の集落と民家」（『信濃』1990年1月）はその調査報告である。

小林昌人氏は、上塩尻に関し次の3点を特筆している。

- 1) 蚕書と蚕業先駆者を輩出したこと（塚田与右衛門、藤本善右衛門、清水金左衛門）
- 2) 蚕室造りの居宅と専用蚕室が昔のまま現存していること
- 3) 蚕室造りの集落と北国街道の家並みの景観が美しいこと

この調査は、地元上塩尻に関し、かなり丹念に調査した跡がうかがえる。まず地勢的な面、習俗的な面などに言及し、農作地が狭いため住民は頭を使わなければならなかったことが蚕種製造の発展の要因にあることを指摘している。

氏の関心事は次に蚕室造りの民家に向けられる。蚕種製造が盛んに従い、蚕室造りの民家が増える事を指摘している。氏は蚕室造りの民家を①茅葺き民家を養蚕用に改造した家、②茅葺き屋根を改造し二階を蚕室にした家、③最初から二階建て蚕室造りにした家、以上の3タイプに大別し、④専用蚕室、⑤桑屋、⑥種室、⑦塗籠造り・長屋門、⑧強い西風に対する備えといった特徴を挙げている。

### (2) 工学院大学山崎弘研究室による調査 1989～1992年

工学院大学山崎弘氏を上塩尻に招いたのは小林昌人氏である。山崎氏は小林氏の調査を踏まえ、建築学的視点から上塩尻の蚕室民家群のかなり詳細な調査を行った。その調査の中核になったのは、山崎弘研究室の大学院生・鈴木晶子氏である。両氏は1991年、日本民俗建築学会大会で研究発表し、その発表内容は論文「上田市上塩尻集落の民家—『蚕書』の影響がある主屋建築—」（『民俗建築』1991年11月）にまとめられている。

その研究成果は、鈴木晶子氏の修士論文「長野県上田市上塩尻の養蚕民家について—蚕

書と養蚕飼育法による家屋構造への影響」(1992年3月、工学院大学大学院)に集成された。

鈴木晶子氏の論文は、蚕書(養蚕技術書)が民家の家屋構造に影響を及ぼした事を裏付けたものである。当該研究は、蚕種製造の3つの主地域、上塩尻、福島県伊達地方、群馬県境町島村の背景・特色、3地域の相互的な影響関係に言及していて興味深い。

鈴木氏は塚田与右衛門の『新撰養蚕秘書』、藤本善右衛門の『蚕かひの学』、清水金左衛門の『養蚕教弘録』のそれぞれに蚕室建築技術上の注意点が記述されている点に着目し、蚕書のどの要素が建築に影響を与えたかを具体的に跡付けた。

鈴木氏は、上塩尻の23軒の民家を調査し実測図面を作成した。これらの民家の建築上の特色を詳しく分析した。これらの民家の何軒かは現在は失われている。後世に残す調査データとしても貴重なものである。

### (3) 杉仁氏による在村文化研究 2001年頃

杉仁氏(1934~)は『近世の地域と在村文化—技術と商品と風雅の交流—』(2001年)、『近世の在村文化と書物出版』(2009年)で上塩尻が全国的にも稀有な蚕書の里であること、上塩尻・欧州・野州の蚕種製造者間で技術交流があったこと、上塩尻の蚕種販売が風雅の交流まで生んだ近世の在村文化を裏付けている。

### (4) 国立歴史民俗博物館(千葉県佐倉市)の第3展示室(近世)展示

第3展示室(近世)の「知識と技術/蚕を飼う」のコーナー(上塩尻の蚕書、蚕種製造技術、風雅の交流)には、上塩尻の蚕書・蚕種製造を基にした展示がされている。国立の博物館の展示に「上塩尻村」が「蚕書の里」として採りあげられていること自体が特筆されるべきことである。

展示内容の一部に杉仁氏『近世の地域と在村文化—技術と商品と風雅の交流—』(2001年)の研究成果が活かされている。

### (5) 上田市による塩尻地区近代化遺産調査事業 2001~2004年度

2001年度、上田市教育委員会の提案により「塩尻地区近代化遺産調査委員会」が組織され、その調査事業が開始された。当該事業は3年間に渡り継続して実施された。

①2001年度 塩尻地区近代化遺産調査事業

②2002年度 塩尻地区近代化遺産活用計画策定事業

③2003年度 塩尻地区観光ビジョン策定事業

上塩尻だけでなく塩尻地区(秋和、上塩尻、下塩尻)を対象エリアとし、近代化産業遺産としての蚕室民家群と景観を地域振興、とりわけ観光地づくりを目的として進められた。

当該事業の特色は行政主導でなく、地域住民が中心となって観光ビジョンを実施に移すことが謳われていることである。住民が主メンバーとなり、分科会に分かれての検討も行

い、年度ごとに報告書や冊子類がまとめられている。

初年度となる 2001 年度の報告書は、塩尻地区の歴史、地域資源を住民が主体で分担執筆した労作である。冊子『上田しおじり』（2003 年 3 月）は 2 年間の調査内容を集成した万人向けのガイドブックである。塩尻地区の地域資源が 30 頁余りの冊子にコンパクトに凝集されている。編纂に関わった住民の熱意が伝わるアウトプットである。

地元住民の熱意により進められた事業ではあったが、この後の発展がもたらされることはなかった。その背景には市職員の担当者の異動があり、その後の事業が続かなくなったこと、その挫折感が事後も続いていることを複数の方々異口同音に指摘している。

#### (6) 2005 上田のまちづくり・景観研究プロジェクト 2005 年度

2005 年度、長野県上小地方事務所が「お出かけ J プロジェクトチーム」を立ち上げた。その一つ「城下町上田のまちづくり・景観研究プロジェクト」は調査地区を上塩尻に絞って現地調査を行い、年度末に『上塩尻地区まちづくり報告書』に取りまとめられた。長野県建築設計事務所協会上小支部が関わっている。報告書は修景の提案、建築基準法、景観法、文化財保護法等の法規解説、まちづくり提案といった内容から成る。

長野県建築設計事務所協会上小支部はこれに先立つ 2003 年度から秋和塩尻地区の北国街道町並みの調査を行い、支部ホームページにもその調査データを公開している。

[http://space.geocities.jp/jkyou\\_js/siojiri/siojiri1.htm](http://space.geocities.jp/jkyou_js/siojiri/siojiri1.htm)

当該事業はその後発展することなく、単年度で終了したようである。担当者の異動が終了の要因であったとの指摘がある。

#### (7) 東北大学・長谷部弘氏らの「近世上塩尻村」共同研究 1997～2018

長谷部弘氏（東北大学大学院経済学研究科教授）を中心とする研究グループは長年に渡り、近世上塩尻村を対象に近世日本の地域社会と共同性の研究を進めてきている。その研究成果は『近世日本の地域社会と共同性—近世上田領上塩尻村の総合研究Ⅰ』（長谷部弘・高橋基泰・山内太編、2009 年）、『別巻 飢饉・市場経済・村落社会—天保の凶作からみた上塩尻村—』（長谷部弘・高橋基泰・山内太編、2010 年）に集成されている。2018 年度には『近世上田領上塩尻村の総合研究Ⅱ』が上梓される予定である。

長谷部氏は、近世上塩尻村を研究対象とした理由の一つを「上塩尻には公私にわたる歴史資料が歴史学研究史上まれにみるほど大量かつ集中的に残されていたからである」と述べている（『近世日本の地域社会と共同性』 p.3）。

上田市立博物館所蔵の佐藤嘉三郎家文書から前近代社会の村落共同体について調べるうち、上塩尻村内の八つの家々の文書、とりわけ藤本善右衛門家文書に行き着いた。「蚕種業界のトップに君臨していながら、その家業や社会的役割がほとんど知られていなかった上塩尻村の藤本善右衛門家について、これらの資料はさまざまな歴史的事実を明らかにしてくれるものと思われる」（前掲書 p.5）とし、「近世から近代、そして現代に至るまでの『上

塩尻村』の歴史的な構造とその変化の全体像を明らかにしうることとなる」と、その研究の意義を強調している。

長谷部氏らは上塩尻村の歴史的事実研究を行うことと並行して、西ヨーロッパやアジア諸国の市場経済化と共同性を比較研究する枠組みを今後の研究の方向性として示している。

「われわれは、本研究の拠って立つところが、ひとえに上塩尻で生活しておられる方々の『生きられた空間』そのものであるという事実の重さを肝に銘じている」と述べている。

#### (8) 千葉大学・マーティン・モリス氏らの研究

モリス氏は、『近世日本の地域社会と共同性』（長谷部弘他編、2009年）の「蚕種業の展開と住居建築の変容」（pp.153-169）を分担執筆している。モリス研究室は2005年度、上塩尻の佐藤一助家住宅などを現地調査した。須田好美氏の修士論文「景観重要建造物としての養蚕家屋に関する研究—長野県上田市塩尻地区を例に一」はその調査の成果である。当該研究で、地域の歴史を継承する伝統民家とその景観を景観法の適用、民家再生の観点から地域再生の可能性を考察したものである。

#### (9) 上田小県近現代史研究会による地域史研究

同研究会は2003年から藤本蚕業関係資料（藤本本家関係資料などを含む）の整理を始め2009年、資料目録を作成した。それらの資料は2009年に開館した藤本蚕業歴史館に収蔵されている。

同研究会は藤本関係資料の整理と並行して、地元向け歴史講座『『塩尻時報』とその時代』を2004～2011年度、上田市西部公民館で開催した。住民による『塩尻時報』の研究冊子を作成することを目標として講座が重ねられた。それらの講座資料、学習成果の資料は講座参加者に配布されている。

同研究会は、毎年、研究成果をブックレットという形で発行している。塩尻地区を部分的に扱ったものとしては『蚕都うえだ物語』（2008年）、『蚕都上田を築き支えた人びと』（2010年）、『蚕都上田を見て歩こう—千曲川右岸の施設・建物編』（2012年）がある。

#### (10) 蚕都上田プロジェクトによる冊子・地域記録

2008年に立ち上げた蚕都上田プロジェクトは2009年度の実施事業「蚕都上田お宝発見2009」を皮切りに蚕都上田の歴史文化に関わる冊子作成、まちあるき等の実施記録のデータ作成を行った。冊子『蚕都上田歴史文化財マップ』（2010年）、『蚕都うえだ物語／蚕都上田年表』（2012年）の他、以下のデジタルアーカイブサイトを公開している。これらの成果に塩尻地区の記録が含まれている。

『蚕都上田放送局』 <https://tv.orahonet.jp/docs/santo2009/>

『信州上田シルクロードアーカイブ』 <https://www.mmdb.net/silknet/archive/ueda/>